

平成23年度 第2回太田市公共工事入札等監視委員会 委員コメント

中原 國隆 氏

- ・ 入札制度の更なる改善に向けて、結果の評価改善から課題の抽出分析まで、よどみなく継続されてきており、取り組み姿勢に敬意を表したいと思います。今後は、分析力を深めることを期待したいと思います。

穂積 照雄 氏

- ・ 太田市は、毎年、入札制度を見直しているが、大変結構なことだと思う。しかしながら、依然として”くじ引き“による落札が多くを占めている現状は課題として残る。この問題は、非常に難しい問題であるが、官民で不祥事を起こすことのないよう、行政・業界が協働して課題に対し検討するべきであると思う。

神保 益夫 氏

- ・ 入札方式については、時代背景及び景況を考慮して、毎回改善に取り組んでいるのが見られます。しかしながら、考慮する要素が多ければ多いほど、当事者にとっては不満が残るのも事実です。

毎回同じような意見となりますが、公平性を考えた場合、若干の制度改善はあったとしても「競争入札制度」という考え方を基本にしての改善であって欲しいと思います

坂本 正堂 氏

- ・ 予定価格の事前公表の方針については、基本的に賛成します。ただし、太田市の業者にとっては、工事数、金額が少ない中での競争となると、入札が最低制限価格に収斂してしまい、非常に厳しい経営を強いられることも予想されます。

東日本大震災などのような非常時においては、土木工事等建設関連会社の援助、支援は不可欠となります。現状、太田市は近隣の他市に比較し、工事案件を高いレベルに維持しておりますが、経済環境の変化などにより、工事件数の減少等が考えられます。そのような事態を勘案しつつ、入札制度を現在行われているように、継続的にチェック、見直ししていくことが重要と思われれます。

藤田 修司 氏

- ・ 私は、入札については予定価格、最低制限価格の事前公表なしの完全一般入札が本来のあり方であると思っています。しかしながら、自然な制度での運用から公平な活用がなされずに、他の行政機関のように逮捕者が出たのでは大変なことになります。公平に秩序を乱さずに安全に遂行できる保障が無いならば、事前公表も仕方ないところです。公平かつ安全な運用がなされるよう、行政側の適切な制度見直しと業者側の良識ある姿勢を望むところです。